

# 毒山凡太朗+キュンチョメ展覧会「今日も きこえる」 ナオ ナカムラ 浜通り支部



この度、9月18日から22日までの5日間、福島県いわき市のワタナベ時計店3Fにあります「ナオナカムラ」では、毒山凡太朗、キュンチョメによる展覧会「今日も きこえる」を開催いたします。

これまで東京都をメインに活動してきた常磐出身の両作家が”この地の空と狂気とウソ”をテーマに、毒山の故郷である福島県で初めて開催する展覧会です。

また、2012年よりスタートしたナオナカムラにとっても福島県で今展を開催することは初めての試みとなります。毒山凡太朗、キュンチョメによる展覧会「今日も きこえる」をこの機会にどうぞご覧ください。

## 【開催概要】

展覧会名： 毒山凡太朗+キュンチョメ展覧会「今日も きこえる」  
会期： 2015年9月18日(金)～9月22日(火)  
会場： 福島県いわき市 ワタナベ時計店 3F「ナオ ナカムラ」  
福島県いわき市平字二丁目33-1  
開場時間： 10:00～19:00(会期中無休)  
入場料： 無料  
作家： 毒山凡太朗、キュンチョメ

お問い合わせ： nakamuranao19900715@gmail.com  
080-4347-1887 (展覧会担当:中村奈央)

ウェブサイト： <http://naonakamura.blogspot.jp/>



いわき駅南口より徒歩5分  
居酒屋いろはにほへとに上がる階段を昇った先

この度、福島県いわき市のワタナベ時計店3Fにあります「ナオナカムラ」では、毒山凡太郎、キュンチョメによる展覧会「今日も きこえる」を開催いたします。福島県出身の毒山凡太郎と茨城県出身のキュンチョメ、常磐出身の両作家がリサーチを重ねて作り上げた本展は”この地の空と狂気とウソ”がテーマとなっています。

あの日から約5年の月日が流れました。未だ多くの街がバリケードで塞がれ、海はコンクリートで埋め立てられ、この地、いわきでは水平線すらまともに見ることができなくなりました。そんな中作家たちは、何にも束縛されることのない福島空と、この空を愛した女性、高村智恵子に注目していきます。智恵子は福島県に生まれ育った画家ですが、晩年は精神が薄弱して狂人とみなされていきます。それでもなお彼女が最も愛したものは、故郷の福島空でした。夫である高村光太郎が綴った詩に“智恵子はα次元”と記されているように、彼女は全く別次元の存在へと自分自身を落とし込み、周りが騒ぎ立てる音を一切遮断して福島空のみを愛し続けます。

今日、わたしたちはどんなに遮断しても様々な雑音を受動的に耳にしています。けれども、きこえてしまうがゆえに出来てしまうものがあります。それは智恵子が語った本当の空のような絵空事にみえるかもしれません。「だけど、未来を語るにはウソにこそ意味がある。ウソだけが二度目の明日を作ることができる」と作家たちは言います。

有象無象の言葉があふれる福島空の下、作家たちの思いに耳を澄ませていただければ幸いです。

毒山凡太郎、キュンチョメによる展覧会「今日も きこえる」をこの機会にどうぞご覧ください。

ディレクター 中村奈央

ナオ ナカムラ nao nakamura

東京都の高円寺にあるオルタナティブスペース「素人の乱12号店」をメインにしながらも、特定のスペースは持たずに月に1度のハイペースで展覧会を開催するノマドギャラリーです。ディレクターの中村奈央は1990年山口県生まれ。2012年4月より「ナオナカムラ」の活動をスタートしました。

<http://naonakamura.blogspot.jp/>

常に磐石なる地と書いて常磐。福島から茨城に渡るこの常磐という呼称は永久不滅という意味が込められている。今となっては悪い冗談みたいな名称だけれど、5年前までは自分たちはとても安全な場所に住んでいると皆が本気で信じていたのだ。今や常磐道を北上し故郷に帰り着くたびに吐き気を覚える。土建ゴロが闊歩し、海はコンクリートで埋めたてられ、避難してきた県民とは生活ゴミの捨て方で揉めて、人々は酒のつまみに悪いうわさ話で盛り上がる。我が家の父は錯乱し家の窓も雨戸も一切開けず、外出するときは未だにマスクを手放さない。元気なのは犬と性風俗産業と放射能だけだ。なにが故郷だ。二度と戻らねえよ。かくして俺は故郷を捨てた。東京の街では福島出身だと言うだけで「大丈夫？」と声をかけられるけど、大丈夫なわけねーじゃねえか、だから東京にいるんだよと、声を荒げたくなることもある。どこもかしこも、うっせーよ。

そんなどうしようもない故郷に帰る事にしたのは、一人の気の狂れた女に導かれたからだった。故郷の有名人、高村智恵子。福島の花だけじゃ本当の花だと言いつけて精神が薄弱して死んでいったあわれな女。そんな智恵子の言葉が福島県安達太良山のとっぺんにかかげられている。「この上の空が本当の花です」確かに、この花だけは5年前とも変わらないし、千年後だって変わらないだろう。地上のクソみたいな出来事とは関係なく、ここにはほんとうに本当の花があるのかもしれない。

一番信じられない場所で、二度目の明日を見つけよう。  
このどうしようもない故郷へ、愛を込めて。

毒山凡太郎＋キュンチョメ

## 毒山凡太郎 Dokuyama Bontaro

1984年福島県生まれ。福島の人知を超えた自然に感銘を受けながら、18歳まで福島県田村市で過ごしました。

震災後の風俗バブルに湧くいわき市で風俗嬢“リカちゃん”を買うことを試みますが失敗し、福島県小野新町の人形工場で製造される“リカちゃん”に癒しをもらう映像作品「LInCCAi-CHAN」(2014)や、大量に座礁したイルカから生じる未来の震災への予感と、広大な海に流れる時間に「この国」を映し出した映像作品「1/150」(2015)などを発表。生まれ育った福島とそれを取り囲む社会をみつめ、第六感のアンテナを巡らせて作品にアウトプットしています。

<http://bdokuyama.wix.com/dokuyama-works>



「1/150」  
2015  
映像

2015年04月10日、茨城県銚田市の海岸に大量のイルカが打ち上げられ、また大地震が来るのではないかと日本中がざわついた。

イルカの死により皆の記憶のスイッチが入ったのだ。その死体は、大地震、福島原発の汚染、米軍のソナー、周辺国の核実験、あらゆる事態を想起させるコマンドとして機能した。

映像撮影日は正確には2015年04月11日。

150頭打ち上げられた中の最後に残った一頭のイルカ。



「千年たっても」  
2015  
映像

はっ？ うっせーよ  
なにがあらうと、ここが本当の空

## キュンチョメ KYUN-CHOME

2011年に結成した男女によるアートユニットです。

東日本大震災の被災地で自らが狼の遠吠えを繰り返し、警報のように響き渡る映像作品「遠い世界を呼んでいるようだ」(2013)や、世界が変わってしまった時刻にセットされたアラームで野良犬を起こし、飛び起きたり寝続ける犬の仕草から人間の「その時」のアクションを想起させる映像作品「WAKE UP!」(2015)などを発表。社会の「あっち」と「こっち」にフォーカスした生々しくも儂く詩的な世界を作品として炙り出していきます。

また、第17回岡本太郎現代芸術賞の最高賞である岡本太郎賞を受賞するなど国内外問わず発表し続ける今最も注目すべき作家の1人です。

<http://kyunchome.main.jp/>



「DO NOT ENTER」

2013

映像

津波が侵入した跡地にあったものは、壊された家と家具とDO NOT ENTERと書かれたテープだった。入ってきてはいけないのは海の方なのに、なんだか無性に悔しくて、波を止めようと思った。



「WAKE UP!」

2015

映像

世界が大きく変わった時刻に目覚まし時計をあわせ、路上で眠る犬の枕元にセットする。開戦もテロも地震も予測できない。次はいつ、世界の目覚まし時計が鳴るんだろう。